

令和7年度（2025年度）第4回東海市地域公共交通会議会議録

○会議の名称 令和7年度（2025年度）第4回東海市地域公共交通会議

○開催日時 令和8年（2026年）2月16日（月）

午後1時30分から午後2時55分まで

○開催場所 東海市役所302会議室（3階）

○出席委員 稲吉豊治（会長）、齋藤誠（副会長）、嶋田喜昭（議長）、近藤博之、柴田浩伸（代理）、小林裕之、南伸幸、小島浩資、湯浅一成、片桐眞砂子、竹内祐一、坂本美和子、勝部翼、服部和子、三井輝章、矢野肇、細川至、山田慎児（代理）、桑山忍、北川秀一（代理）、岩川慎吾（代理）

○欠席委員 天野朝之、榑原栄一、今井聡至

○事務局 都市建設部長、都市計画課長、同主幹、同統括主任、同主任2名、同主事、委託事業者

○傍聴者の数 4人

○議題及び審議の概要

1 開会のことば

2 会長あいさつ

（会長）

稲吉会長から挨拶があったもの。

3 報告事項

(1) 前回の会議録の確認について

(2) 循環バスの利用状況等について

事務局から資料1及び資料2に基づき一括説明

（議長）

循環バスについては、令和6年（2024年）10月のダイヤ・ルート再編以降、最初の1年間は前年を下回っていたが、令和7年（2025年）10月以降は前年と比べて増加しており、回復傾向にある。引き続き、経過観察していく。後ほど、ダイヤ・ルート改正の審議を行うが、概ね現状に近いダイヤ・ルートで観察していくこと

となる。

(委員)

ダイヤ・ルート再編以降、徐々に利用者数は回復してきているが、更なる利用促進が今後の課題になると思う。現在取り組んでいる利用促進策や、今後注力していきたい施策があれば説明をお願いしたい。

(事務局)

バスの利用促進対策について、令和7年度(2025年度)の実施内容は、小学生を対象としたバスの乗り方教室を、令和6年度(2024年度)までは2校で実施していたものを、今年度は4校追加し、計6校で実施している。市の予算が議会で承認されれば、引き続き6校で実施していく予定である。また、新たな取組みとして、バス停に上屋・ベンチと単独のベンチの設置を進めており、現場では概ね設置が進んでいる。上屋・ベンチは東海市消防署北出張所の北側の敷地内に設置し、ベンチは5路線全ての路線のバス停に対して、それぞれ1~2か所で市内6か所に合計10基を設置予定である。休みながらバスを待てる環境を整え、更なる利用促進につなげたいと考えている。ソフト面では、市の広報やケーブルテレビなどのメディアを活用し、利用促進の周知を行っている。今後も乗り方を含めてより多くの方に知っていただき、簡単に利用できると思ってもらえる取組みを進めていきたいと考えている。

(委員)

乗り方も含めて、しっかり周知していただきたいと思う。利用の目的がないと利用が進まない面もあると思うので、イベントやバスルートの沿線関係者と連携しながら、お出かけの機会を作る取組みを検討してほしい。

(議長)

ターゲット層はどのあたりを想定しているか。

(事務局)

これまで、日中に移動する高齢者の利用が多い状況であったが、今後はそれに加えて、小学生など将来バスを利用していく層もターゲットにしたいと考えている。来年度は、秋まつりの会場にバスを展示し、実際に車内を見ていただく機会を設ける予定である。バスを見たことはあっても、乗ったことがない方が乗り方などを気軽に質問できる場にしたいと考えている。特定の年齢層に限定するのは難しいが、これまで利用経験のない方も含め、幅広い方に利用していただきたいと考えている。

(議長)

資料2の1ページを見ると特別乗車証利用者が減っている。その代わり、他の年齢層の利用が増えているのであればよいと思うが、どうか。

(事務局)

利用者全体としては、現在、合計で826人減少している。一方で運賃収入は増加している。75歳以上の特別乗車証利用者が大きく減少しているため、差し引きすると有料利用者は約2,000人程度増えていると考えている。ダイヤ・ルート再編の際に、主要駅からの目的地、例えば市役所から太田川駅間の便を増やしたことにより、その区間での利用者が増加しているのではないかと考える。また、朝の通学通勤時間帯の利用についても一定程度増えているのではないかと考えている。

(議長)

運賃収入は増加していくことが望ましいと思うので、引き続きよろしく願いしたい。

(3) デマンド交通「チョイソコとうかい」の実証実験について

事務局から資料3に基づき説明

(議長)

16時から18時までに運行時間を延長しているが、延長した時間帯の利用が多い理由についてどのように考えているか。

(事務局)

外出は午前中に集中する傾向があると考えている。16時以降の利用は大きく増えているわけではないが、13時台に目的地へ外出される方は増えているので、帰宅時間に余裕を持って外出できる環境にはつながったと考えている。一方で16時から17時頃になると、医療機関では午後の診療の開始時間によっては、帰宅時間が運行時間外となる可能性があることへの不安があると思われる。また、18時に住宅地停留所へ到着する予約しか受付できないため、片道20分程度かかる場合、17時30分頃までに乗車する予約が必要となる。予約は原則20分前までとなるため、帰りの予約が難しいと感じ利用を控えている方もいるのではないかと考えている。

(議長)

時間延長については利用者の皆さんに周知されているという認識でよいか。周知状況はいかがか。

(事務局)

チョイソコ通信で2～3回程度、繰り返し周知を行っている。また、車両にも時間延長を案内する掲示物を掲載しているので、既存の利用者には概ね周知できていると考えている。

(委員)

会員の方への周知はできていると思うが、新規利用者や会員でない方への周知はどのように行っているか。

(事務局)

会員でない方に対しては、時間延長時に広報とうかいで周知を行った。その後、半年が経過しているため、現在は市の広報への掲載のほか、公民館や市民館にポスターを掲示している。また、パンフレットの配布なども行い、引き続き周知を図っていきたいと考えている。

4 協議事項

(1) 議案第1号 令和8年度(2026年度)東海市地域公共交通会議事業計画書案について

(2) 議案第2号 令和8年度(2026年度)東海市地域公共交通会議予算案について
事務局から資料4及び資料5に基づき一括説明

(議長)

来年度はアンケート調査や利用実態調査も実施されるので、その点も含め地域公共交通計画の策定に向けて協議いただきたい。また、予算案については東海市の負担金が増加しているが、主な要因は資料5にある地域公共交通計画の策定事業費によるものであり、この点が大きな変更点となっている。

(委員)

デマンド交通について、現段階における事業報告と新年度に向けた事業内容についてお聞きしたい。現在、実証実験を実施しており、利用時間帯の変更や延長などを行いながら利用者を増やす取組みを進めている。実証実験の延長期間を経て本格運行への移行を検討することとされている。新年度1年間、実証実験を継続しながら各種取組みを進め、より良い形にしていくものと理解しているが、本格運行へ移行する際の判断基準は、どの点に重点を置いて考えていく予定か。また、本格運行へ移行する時期について、現時点でのおおよそのスケジュールなど公表できる範囲で教えてほしい。

(事務局)

本格運行への判断基準としては現在3つの目標を設定している。1つ目は会員登録数、2つ目は1日当たりの運行回数、3つ目は乗合率である。会員登録数は500人を目標としており、現在443人のため達成は可能と見込んでいる。次に1日当たりの運行回数については12.5人を目標としている。10月以降運行時間を2時間延長したこともあり、11月・12月は15人程度まで増加したが、1月はやや減少している。判断する際は、直近の1ヶ月ではなく、直近6か月の平均で12.5人を上回るかどうかで判断していきたいと考えている。本事業はタクシーとは異なり、バスのように乗合いを前提とした交通手段であるため、乗合率については他自治体の事例も参考にしながら、1.5人を目標としているが、現時点ではまだ到達していない状況である。本格運行の判断時期については、令和8年度(2026年度)第1回の会議で状況を確認し、実施の可否を判断していきたいと考えている。仮に本格運行へ移行する場合は令和9年(2027年)4月1日からの開始を想定している。判断時期と本格運行の開始まで期間が空くことになるが、その間は、準備期間として事業者の選定方法や運行条件の見直しなどについて協議を行う必要がある。本格運行をしない場合でも、実証実験自体は来年度末まで継続する予定である。全体の方向性は早期に決定しつつ、細かな部分については随時見直しを行い、より利用しやすい公共交通となるよう検討を進めていきたいと考えている。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

(3) 議案第3号 令和8度(2026年度)循環バス無料運行の実施について

事務局から資料6に基づき説明

(委員)

赤字補填の部分については、市が補填するという形でよいか。

(事務局)

本来、循環バスの運行に関する市の負担金は年間の運行経費から運賃収入などを差し引いた不足分を市が負担する仕組みとなっている。そのため、収入として確保できなかった分については、市が負担することになる。

(議長)

資料2の循環バスの利用者数に無料運行の利用者数は含まれているか。

(事務局)

無料運行の利用者数も含めて記載している。

(委員)

桜まつりは、毎回駐車場が満車となり、大変混雑している。その中で、らんらんバスが通常どおり出入りして、運行できるのか少し不安がある。また、駐車場が混雑している状況もあるので、らんらんバスの利用を積極的にPRしていただけるとありがたいと思う。

(事務局)

桜まつりの際は、市役所駐車場が満車となる状況が続いている。今年度も、渋滞によりバス車両が進入できなくなることを防ぐため、バスの誘導用に新たに交通誘導員を配置している。進入方向で渋滞が発生している場合でも、反対車線側が空いている状況であれば誘導員が一般車両を一時的に止め、バスを先導してバス停まで到達できるよう対応している。また、第2駐車場で車両の充電を行っているため、充電ができない場合は運行に支障が生じる可能性があるため、交通誘導員を配置し、運行に支障が出ないように対応している。桜まつり期間中のバス利用の周知については、車内掲示のほか観光協会のホームページや市のホームページなどで周知し、日中の来場についてはできる限りらんらんバスを利用していただき、渋滞緩和につなげたいと考えている。

(議長)

桜まつりの来場者数は、どの程度か。把握されているか。

(事務局)

来場者数の分かる資料を持ち合わせていない。

(議長)

秋まつり及びフラワーショーについては、毎年実施している事業であるので、来年度も引き続き実施をお願いしたいと思う。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

(4) 議案第4号 令和8年度(2026年度)循環バスのダイヤ・ルートの一部改正について

事務局から資料7に基づき説明

(議長)

資料7の1ページ目の駅前広場の平面図は、これで概ね完成という理解でよいか。入口と出口が一体となった構造で、処理としては妥当と思われるが、市道名和加木屋線との交差点が無信号の交差点となる点について、交通処理が可能かどうか最も懸念される。この点についてはいかがか。

(事務局)

ご指摘のとおり、北側から南進する車両が駅前広場へ進入する際、渋滞が発生し、影響が出る可能性がある。特に駅前広場から南進するために右折して出る際に市道名和加木屋線で渋滞が発生していると、バスを含め車両が出にくくなる懸念がある。この交差点については、前回の公共交通会議でもご意見があり、現在、担当課でも確認を行っている。信号機の設置については公安委員会としては難しいとの見解が示されている。そのため、限られた道路幅員の中で、例えば南進方向で駅前広場への右折車両が停止している場合に、その左側を通行できるような構造が可能かどうか、一般車両も含めた交通の円滑化が図られる対策について公安委員会と協議を進めていると聞いている。少しでも改善が図れるよう、引き続き協議を行っているところである。

(議長)

車道の幅員を少し広げるということか。

(事務局)

そのように検討している。

(議長)

南進してくる車両の交差点流入部だけを少し広げるようなイメージか。

(事務局)

そのような形で対応できないか検討しているところである。

(議長)

北進側は多少幅員を調整し、南進側の交差点流入部を広げ、右折レーンの設置までは難しいかもしれないが、右折車両の横を通過できる構造にするということで理解した。駅前広場から右折で南進する場合についてはどうか。

(事務局)

南側の都市計画道路養父森岡線との交差点は右折帯が整備されているため、渋滞がなければタイミングをみながら右折は可能と考えている。現在もそのような形で出入りを行っている。

(会長)

補足ではあるが現地測量の結果、北進する車両は、交通工学上1.5車線程度の幅員は確保できることを確認している。その内容をもとに、現在警察と協議を進めているところである。

(議長)

まずはこの形で開始し、問題が生じた場合には、改めて改善策を検討していきたいと考えている。

(委員)

駅前広場の管理は市が行うという認識でよいか。また、図面を見る限り、タクシーが待機できるような専用スペースが設けられていないように見受けられる。バス停の南側はバリアフリー車両用のスペースの記載があるが、駅前広場内でのタクシーの待機は難しいか。

(事務局)

駅前広場の管理は、市が行うことになる。タクシー専用の待機マスについては、現時点では計画していないと聞いている。図面上でバス停と記載されている箇所の後方エリアについては、一般車両が待機できるスペースとなっているため、空いている場所を利用し、予約に応じた乗降や事前待機は可能と考えている。

(議長)

駅前広場は都市計画道路に位置付けられているか。

(事務局)

都市計画道路には位置付けていない。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

議題終了

(議長)

本日、ご協議いただいた議題は以上となるが、委員の皆様から何かご発言等があれば伺いたいと思う。

(委員)

チョイソコとうかいについて、先日当施設に来られた方の話である。加木屋にお住まいだった方が名和へ引っ越しされ、以前は加木屋から電車とバスで来られていた。

妊婦の方で運転免許もお持ちではない。若い方であるので、インターネットで交通手段を検索されたところ、適当な移動手段が見つからずご相談を受けた。チョイソコとうかいをご紹介したところ、現在はそちらを利用して来られている。若い世代はインターネットで調べる方が多いため、まだ十分に周知が行き届いていないと感じた。ウェブマップへの掲載は難しいかもしれないが、ホームページ上で簡単に情報が見られるようになれば、利用者の年齢層を広げられるのではないかと思う。

(事務局)

利用できる方が限定されているので、現在は、利用できる方のお住まいの地域のみ詳細な内容の周知を図っている。今後も市のホームページや広報への掲載も含め周知を図るとともに、本格運行時には循環バスのガイドブックへの掲載も検討する。現段階では実証実験中であり実施期間や本格運行への移行判断も確定していないため、周知には慎重な対応が必要と考えている。本格運行となった場合には、広く知られているらんらんバスとあわせた周知も検討したいと思うが、地域限定である点も踏まえ、配慮しながら周知を図っていきたいと考えている。

(議長)

東海市の公式 LINE での周知はいかがか。妊婦の方や移動に困っている方向けに、情報発信するなど何かのお知らせの機会にあわせて紹介する方法もあるかと思う。実証実験中ではあるが、移動に困っている方には体験していただくことも大切である。

(事務局)

しあわせ村で妊婦健診を実施している際、足がなくて来られない方がいるという話は、保健師からも聞いている。しあわせ村の窓口にもチョイソコとうかいの案内を設置し周知をお願いしている。ただ、現場業務も多く十分に対応できていないのが実情である。今後はこちらから積極的に案内を送るなど、都市計画課としても工夫しながらPRを進めていくべきと考えている。

(委員)

荒尾住宅東のバス停位置が清掃センター寄りに変更となったが、乗降客は増えたか、それとも減ったか。

(事務局)

荒尾住宅東のバス停を東側へ移設した件について、バス停ごとの乗車人数は、隔月で乗降調査は実施しているが、平日、休日それぞれ月1日の調査であるためトータルでの増減を正確に把握するのは難しい状況である。ただ、バス停が利用されている実

績は確認している。どのバス停でどれだけ利用があるかを日常的に把握できていない点は、市としての課題と認識している。今後はどのバス停が利用され、どこが使われていないのか、また使いにくさがあるのかといった点は、検証できるようにしていきたいと考えている。地域から遠くなって使いづらいといった声は、現時点では市に寄せられていない。

(委員)

苦情は出ていないということによいか。

(事務局)

市への電話等での苦情はない。実際に声が上がっていないだけの可能性もあるので、今後地域で議論がなされる場合には、バス停の位置について改めて検討する必要があると考えている。町内会等で協議のうえ、この位置で了承が得られる、あるいは住宅地側への移設が望ましいという意見がまとまれば、見直しも検討したいと思う。最終的には地域の機運を踏まえて判断していくことになると考えている。

(議長)

委員の方でそのような噂やお話を聞くことはあるか。

(委員)

「乗らない」という方もいましたし、「なかなか乗る機会がない」という声もありました。また、「遠くなったね」という方もいる。

(議長)

そういうご意見は出てくるかと思うが、来年度の調査でそのあたりも含めて把握できそうか。

(事務局)

交通会議で予定している調査としては、バスのOD調査がある。どのバス停から乗って、どこで降りたかを平日、休日のそれぞれ1日の状況を把握する調査である。ただ、限定された1日となるため、乗降客数の詳細なカウントができないかどうかについては、現在検討しているところである。

(議長)

例えばA Iカメラを設置して、画像処理で把握するという方法も考えられる。最近では技術も進んでいる。

(事務局)

来年度予算については、公表できる範囲に限りがあるが、まもなく新年度予算の記

者会見等があるので、その場で報告できればと考えている。

(議長)

OD調査について、本来であれば連続して複数日調査できると良いが、予算の関係ということでよいか。

(事務局)

OD調査は平日と休日それぞれ1日ずつの実施となるが、人件費が大きな課題となっている。来年度以降もこの会議にご参加の皆さまから、こういう声を聞いた、こういった困りごとがあるといった情報をお寄せいただければと思う。バスに限らず公共交通全般について、交通事業者の皆さまとも活発に議論していければと考えている。些細なことでも構いませんので、今後のご意見をいただければ幸いである。

(委員)

東海市には、元浜のバラ園や大池公園の梅など、花の名所がいろいろある。そうした場所へらんらんバスを使ってどう行けるのか、どこで降りればいいのかといった案内をもっと宣伝してほしいと思う。例えば、上野台公園のアジサイの時期などにあわせて、PRしていただけるとありがたい。らんらんバスを活用して、特にシニアの方が健康づくりも兼ねて出かけられるよう、積極的に周知していただきたいと思う。

(事務局)

花火大会のような大きなイベントでは、らんらんバスで行けるといった周知を行っているが、それ以外のイベントについてもらんらんバスの利用促進を図りたいと考えている。チラシ作成時には、電車だけでなくバスでも来られること、近くにバス停があることを掲載してほしいと各担当課へ要請している。市ホームページでも公共施設へのアクセスが電車中心の記載になっていたため、らんらんバスや知多バスなどの路線バスについても掲載するよう各課に働きかけている。駐車場が混雑するイベントもあるので、公共交通を積極的に利用していただけるよう今後も周知に努めていく。

(議長)

せっかく花の名所がたくさんあるのであれば、フラワーマップのようなものは作っていないか。路線図と重ね合わせると面白いと思う。

(事務局)

市の観光パンフレットには、季節ごとの見どころが掲載されている。今後、観光部局、公園部局とも連携し、パンフレット作成の機会などを捉えて、バスによるアクセスの掲載について要請していきたいと考えている。

(議長)

フラワーコースのようなものができると、より文化的で魅力的になると思う。ぜひ検討してほしい。

5 閉会のことば